

Annual Report



就業力育成支援室

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42

TEL:0798-32-7532

E-mail:cplats@otemae.ac.jp

<http://www.otemae.ac.jp/cplats/>

平成24年度 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択事業
『産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実』

平成25年度 事業報告書

教育ボランティア募集

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価していただく協力者を募集しています。

<活動内容>

- 授業内での活動
 - ・学生の発表評価。
 - ・就業力をつけるための課題提供（可能な方）。
- 授業外での活動
 - ・学習記録（文章・映像など）をWeb上から評価。
 - ・個人面談によるキャリア・アドバイス。

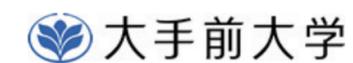
<資格>

- ・本学の教育と本事業の趣旨にご賛同いただける成人の方。
- ・実社会の視点を持ち込んでくださる方であれば現在のご職業の有無、年齢などは問いません。
- ・卒業生、通信教育課程学生の方、歓迎。

<活動時期>

- ・年に数回を予定しております。
- ・活動開始前に2～3時間の研修があります。
- ・基本的にはボランティアでのご協力を想定しており、本学での活動日は交通費程度をご用意しております。

詳しくは上記連絡先にお問い合わせください。



Outline

「映像での成果記録」と「実社会からの視点」を就業力強化に活かします。
「就職に強いリベラルアーツ型大学」のモデルを目指し、以下の4フェーズに分けて推進します。

学生別コンピテンシー伸張の可視化

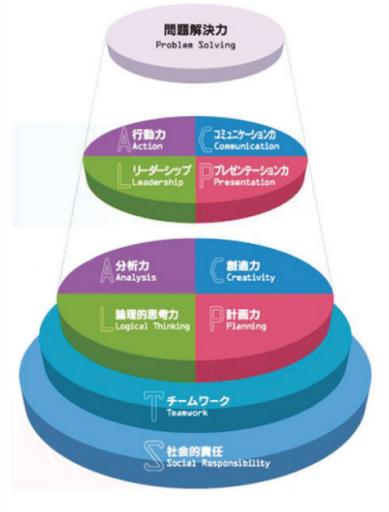
— “映像ポートフォリオ”への蓄積と外部評価・
フィードバックによる就業力強化システム—

I Competency Faculty 活動

本学独自の問題解決能力開発メソッド「C-PLATS®」をもとに学生を育成します。
全学生が履修する1~4年次必修科目(コア教育)はその成果を実践・応用する場として位置付けし、個々の専門科目では特に重点を置くコンピテンシー項目を指定してその伸張を図ります。
大手前大学はC-PLATS®能力の養成によって、「物事を単に知っている」のではなく、「実際に物事をやり遂げる」人材を育成しています。

<C-PLATS®とは>

リベラルアーツカレッジ・大手前大学がその使命として全ての学生に習得させる社会人基礎能力の体系です。学生が将来どのような道に進もうとも、数々の困難な問題を乗り越えて自らの人生を切り開いていくための10の能力(コンピテンシー)の習得を目指します。



大学

学生



III 教育効果の記録・蓄積

就業力育成の効果を測定するために、学生の発表などのパフォーマンス映像を記録・蓄積する映像ポートフォリオのシステムを構築します。
これらの映像は、学習過程の記録と併せ、自己評価・学生相互の評価はもとより、科目担当教員および教育ボランティアによる評価のフィードバックを受けるデータになります。

<映像ポートフォリオとは>

実際に授業で行ったプレゼンテーションなどを映像記録として残し、他者が客観的に評価・分析できるようにするためのツールです。データを蓄積できるため、大学生活における個人の成長記録にもなります。
運用に関しては、実際に通信教育課程で用いられているプレゼン映像記録システム(VCMメーカー)など、本学で運用実績のあるシステムを最大限に活用します。

評価

アドバイス

教育ボランティア



社会

II 就業力育成教育の実施

企業や外部組織との連携を前提とする卒業までの一貫した就業力育成教育を、問題解決型学習 Problem 及び Project Based Learning (PBL) 方式により行います。

<PBLとは>

これまで行われていた「知識偏重型教育」は、講義を受けることで[知識レベル]は向上しても、実際にそれを[行動レベル]に結び付けるプロセスを体感するところまで至らず、いわば知識という道具を使えない状態に留まってしまいがちでした。
それを解消すべく、本学は全ての授業において「問題解決型学習」をコンセプトとしたカリキュラムを展開します。これは、まず問題(課題・テーマ)を設定し、その解決策を創造・発表・討論することを通して自然とC-PLATS®能力を習得させることができる学習メソッドです。PBL型学習を反復・継続することで学生の自発的な学習態度が引き出され、[行動できる力]を養うことができるようになります。

IV 外部との連携

本学の教育改革の取組と成果を豊富な社会経験をお持ちの社会人の目から評価・助言していただき、教育の質を高めるため、平成23年度から教育ボランティアを導入しています。学生は教育ボランティアから課題提供を受け、学生はその研究・解決・実践の成果を授業中および映像ポートフォリオ上で口頭発表し、評価を受けています。

<教育ボランティアとは>

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価していただく協力者のことです。
学生は、蓄積した映像ポートフォリオや、教室での活動の様子を教育ボランティアの視点から客観的に評価してもらうことで実社会との接点を見出し、就業への関心・研究心を継続させる原動力を得ることができます。

これらの活動を通じて総合的実践力を高め、就業意欲や就職活動の増強を図り、就職率を向上させることを目指します。

Activity

Competency Faculty活動、PBL型学習の実施、教育ボランティアの導入、フォーラムの開催など、充実の一年。

<平成25年度 活動実績>

本取組は、平成24年度から「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」として大阪・兵庫・和歌山の14大学グループによる取組となっています。本学では平成22年度から大学生の就業力育成支援事業「学生別コンピテンシー伸張の可視化」に取り組んできましたが、① **Competency Faculty活動**、② **就業力育成教育の実施**、③ **教育効果の記録・蓄積**、④ **外部との連携**の4分野、さらに報告・評価の取組を継続し、一層強化して進めてきました。

I Competency Faculty 活動

全専任教職員がコンピテンシー別のグループに分かれ、教育方法の研究などのFD活動を行っています。平成22年度に開発したコンピテンシーの定義・能力開発目的・目標、能力開発体系などを示したOCD (Otemae Competency Dictionary) および、コンピテンシー能力開発のための教育手法がリスト化されたメソッド集を発行しました。この活動では、教員相互の能力開発手法の発表とディスカッションを通じた成功事例の共有化が毎月行われています。活動報告は非常勤講師を含めた懇談会(4月)と、全学FD(9月、3月)において各コンピテンシーのリーダーにより行われました。

<OCD>

新入生オリエンテーションにて今年度版のOCD【入門編】を新入生全員に配布し、具体的な内容の説明を行いました。また、本学の活動を全世界へ広めるべくOCD【英語版】も出版されています。

<C-PLATS®シラバス>

平成25年度から問題解決力を習得するために必要な能力C-PLATS®の10項目を全科目のシラバスに表記しています。これにより、各授業で習得できる能力のレベルがより明確になりました。



II 就業力育成教育実施

<にしのみや学生ビジネスアイデアコンテスト2013>

11月19日、西宮神社会館にてにしのみや学生ビジネスアイデアコンテスト2013>が行われ、川島正章教授(総合文化学部)のゼミで地域観光のパッケージツアーに関する研究に取り組んだ2名が「西宮市観光協会の地域限定旅行業の登録と地域パッケージツアーの造成と販売」というテーマで発表し、優秀賞を受賞しました。大好きな西宮の魅力をもっと伝えたいという思いから、西宮へ集客するにはどうしたら良いかという点を追及し、西宮のパッケージ旅行のプランをビジネスアイデアとしました。また、この2名は2月23日に「第50回日本ビジネス実務学会・近畿ブロック研究会」(於:西宮市大学交流センター)でも発表しました。



<社会人基礎力育成グランプリ>

12月8日に京都光華女子大学で開催された「社会人基礎力育成グランプリ2014」(社会人基礎力協議会主催)の近畿地区予選大会で、本学のチーム「よろこんぶ」が「準優秀賞」を受賞しました。

「社会人基礎力育成グランプリ」は、大学の授業等を通して、「どのような活動に取り組み、どのように成長できたか」を教員と学生チームが発表する大会です。教員の発表は、本プロジェクトに深く関わった本田直也教授(現代社会学部)が行いました。

本学は「社会人基礎力可視化プロジェクト~行動力(Action)の可視化を通して鍛えられる社会人基礎力~」というタイトルで、オナーズプログラムにおけるPBL型授業「複合型体験学習」の活動の成果を発表しました。このプロジェクトでは、参加学生が学部・学年の枠を超えグループを結成し、C-PLATS®をわかりやすく映像化するという課題に取り組みました。各グループは社会人の視点を取り入れるために、教育ボランティアの協力を得ながら映像化を進めました。本番では、徹底的な議論と練習の成果を発揮した堂々たるプレゼンテーションにより、みごと「準優秀賞」を獲得しました。



<神戸スイーツ学会>

スイーツ学専攻・松井博司教授(総合文化学部)のゼミでは、学生と企業が共同で開発を進めた新しいデザートが全国で販売されるなど、幅広い活動を行ってきました。2月19日にグランフロント大阪・スイーツラボで開催された「神戸スイーツ学会」では、ゼミ生6名が研究発表をしました。

グループ発表のテーマは「阪神間のケーキ店の実情、スイーツMAP」で、洋菓子激戦区と言われる阪神間のケーキ店の実情調査とそのデータから見る考察、分析を行ってきました。研究発表では調査方法をはじめ、分析用データに利用した店舗数、土地と商品の関係性、地域によるお店のこだわりなどを紹介しました。



III 教育効果の記録・蓄積

平成23年度から導入したeポートフォリオシステムを活用し、必修科目において学生の発表パフォーマンス映像を記録し、そのデータを蓄積しています。今年度からはeポートフォリオ上にPBLの課題レポート、プレゼンテーション映像など、課題設定の意図やプロセスが判断できるドキュメント等を定期的に記録・蓄積しています。蓄積された記録は、自己評価に加え、科目担当教員、外部の方の評価を受けることが可能となっています。



IV 外部との連携

<教育ボランティア制度>

本学の教育改革の取組と成果を豊富な社会経験をお持ちの社会人の目から評価・助言していただき、教育の質を高めるため、平成23年度から教育ボランティア制度を導入し、必修科目との連携などに力を入れてきました。ホームページ等を用いて募集を行った結果、現在では約250名の方が教育ボランティアに登録されています。

教育ボランティア候補者は実際に学生へのアドバイスを行う前に説明会及び研修へ参加していただきます。学生のプレゼンテーション映像を見ながら、どのように学生にアドバイスをするべきかなど話し合いを進めるなど、本学が実施している就業力育成教育についての理解を深めていただいた上で、授業内外のプログラムに参加していただく制度となっています。

今年度は新たに「ゼミナール」履修生の専門分野に関する個別面談(3年)を実施しました。また、昨年と同様に必修科目「キャリアデザイン」(1、2年)の授業内で学生が行ったプレゼンテーションに対して、コメントやアドバイス、授業外ではキャリアプランニング作成に向けての個別面談(1年)、全学プレゼンテーション大会(1~4年)における審査員等のプログラムにご協力いただきました。

学生の評価については、OCD内に記述したC-PLATS®に基づいた評価軸を基準としました。またプログラム終了後もeポートフォリオシステムに蓄積された学習記録について評価やアドバイスをいただきました。



<PBL型インターンシップ>

今年度は76名の学生がPBL型インターンシップに参加し、学外の48の企業等で就業体験を行いました。事前研修では業界研究を行い、学生自ら課題を見つけ、調査・分析し、考えをまとめた上でインターンシップに臨みました。

10月22日に実施したインターンシップ・プレゼンテーション大会では、インターンシップ参加全学生の中から選ばれた7名が「私が就業体験で得たもの」をテーマにプレゼンテーションを行いました。授業終了後の遅い時間からの開始にもかかわらず、本学の教職員を始め、インターンシップへの参加を希望している学生、学外からも多くの方が集まり、活発な質疑応答がなされました。



<全学プレゼンテーション大会>

2月5日に全学プレゼンテーション大会を西宮市民会館(アミティホール)にて開催しました。午前は1、2年、午後からは3、4年の各学年の代表者6名・計24名によるプレゼンテーションが以下のテーマで行われました。

- ・1年テーマ「私のキャリアデザイン」
- ・2年テーマ「過去と現在を振り返ったうえで、未来を展望する」
- ・3、4年テーマ「ゼミナール・卒業研究・総合研究を通して得たもの」

学外者が参加され、普段と異なる緊張感が生まれた場面において、学生たちは堂々とプレゼンテーションを行いました。教育ボランティアの方々の方々の社会人の視点による客観的な評価をいただくことにより、プレゼンテーション力やコミュニケーション能力、分析力、論理的思考力などのコンピテンシーの質保証の担保へ向けた取組となりました。



Assessment

評価・報告

本取組を点検・評価するとともに、その成果を広く知らせてゆくため、毎年下期に合同フォーラムを開催し、年次報告書を発行しております。

3月10日には14大学合同でフォーラム「みんなでつくり明日の人材」（於：追手門学院大阪城スクエア）を開催しました。このフォーラムでは、本取組において探ってきた産業界が求める人物像の具体化の調査結果をふまえ、それらをどう教育改善に活かしていくか、また、そのために必要な体制等について産業界、文部科学省、大学、学生がそれぞれの立場から議論し、人材育成の在り方を共に考えました。午前中に行われた「インターンシップ・PBLグランプリ」では本学のグループが「C-PLATS® コンピテンシーの可視化・ビデオ映像作成」について発表しました。

午後の学生リーダー会企画「大学生が抱く理想の学び～大学が変わる 学生も変わる～」では、「学生が抱く理想の学び」を具体化し、大学及び産業界の理解を深めるため、PBL授業の普及や教員維新、キャリアセンター改革、年間履修可能単位の制限（CAP制度）の緩和など、詳細な改革案を提示しました。本学からは3年生の1名がグループメンバーとして参加しました。

また、3月24日には「教育ボランティア座談会」を開催しました。教育ボランティアの方にお集まりいただき、本学の取組みに対して評価・助言を行っていただきました。

平成26年度も引き続き評価活動にも力を入れ、内部評価と教育ボランティアを始めとする外部の有識者による第三者評価を行っていきます。



Message



大手前大学
学長 柏木隆雄

昨年度のAnnual Reportに、私は「就職に強いリベラルアーツ型大学」をめざして」と題するメッセージを執筆しました。

私たちは大手前大学の学生たちや卒業生たちが、実社会においてなんらかの困難な事態に立ちいたっても、さまざまな「問題解決能力」を発揮して新しい展開を示すことができるように、いわゆるC-PLATS®という10の能力（創造力、コミュニケーション力、計画力、プレゼンテーション力、論理的思考力、リーダーシップ、分析力、行動力、チームワーク、社会的責任のそれぞれ英語の頭文字を合わせた本学独自の造語）を涵養、発展させる教育を入学当初から卒業までの4年間に実施しています。そして、じっくりと段階を追って、あらゆるカリキュラムの中でその10の能力を伸ばすように教職員、学生一丸となって努力し、その集大成としての各学年在校生全員によるプレゼンテーションを課しています。

今年2月には本学は初めてこの全学プレゼンテーション大会を学外、西宮市民会館「アミティホール」で開催し、1、2年生はほぼ全員が出席、3、4年生も就活、卒業研究の合間を縫って多数の学生が出席しました。教員だけではなく、学外から社会で活躍しておられ、本学の教育をサポートしていただいている教育ボランティアの方々も審査員として加わっていただき、各学年の最優秀者を選考しました。大ホールの聴衆が見守る中、総計24名の学生の発表は従来にまして堂々として内容もレベルが充実し、それだけここ数年の教員の努力が実った形となりました。

また地方公共団体、経済団体、企業などが主催する企画力コンテストやプレゼンテーション大会においても優秀賞などの好成績を上げる成果が出てきています。これは教職員のたゆまぬ努力とそれに応える学生たちの意気込みとに合わせた結果にほかなりません。私たちにとても成果を上げ得て、自信に満ちた笑顔で壇上から質問に答える学生の姿を見ることは何よりの喜びです。

教育ボランティア制度は3年前に導入した本学のユニークな取組です。プレゼンテーション大会への協力ばかりでなく、各学年における「キャリアデザイン」のプログラムで、授業に参加するなど緊密な関係を構築してきています。豊富な経験、見識に富む社会人の方々ボランティア活動として参加され、学生が成長していく場面に参画することにご自身の喜びを感じていただいています。

学内外の広い人たちに支えられ、「就職に強いリベラルアーツ型大学」は着々と、そして伸びやかに進められているのです。

Schedule

年次計画

平成25年度実績

I. Competency Faculty

- ・C-PLATS® シラバスの発展（全科目）
- ・OCD 2013【入門編】発行（4月）
- ・Competency Faculty 活動実施（毎月）
- ・C-PLATS® 項目の改定・ルーブリック作成（4月～）
- ・Competency Faculty 活動報告（9月、3月）

II. 就業力育成教育

- ・1、2年生 PBL 充実（4月～）
- ・教員相互の授業参観による教育の質の向上（4月～）
- ・ピアサポーター制度の充実（4月～）
- ・PBL 型インターンシップ実施（7月～10月）
- ・全学プレゼンテーション大会（2月）

III. 教育効果の記録・蓄積

- ・eポートフォリオシステム運用（4月～）
- ・1、2年生映像ポートフォリオ収録開始（4月～）

IV. 外部との連携

- ・教育ボランティア募集継続（4月～）
- ・就業力育成支援室 Web ページ更新（毎月）
- ・教育ボランティア研修（11月、12月）
- ・教育ボランティア運用（6月～）
- ・教育ボランティア3年生ゼミへの導入（11月）
- ・キャリアカフェ開催（6月）

報告・評価

- ・合同フォーラム実施（3月10日）
- ・第三者評価実施（3月24日）
- ・報告書発行（3月31日）

平成26年度計画

I. Competency Faculty

- ・C-PLATS® シラバスの発展（全科目）
- ・OCD 2014【入門編】発行（4月）
- ・Competency Faculty 活動実施（毎月）
- ・C-PLATS® 項目の改定・ルーブリック作成（4月～）
- ・Competency Faculty 活動報告（9月、3月）

II. 就業力育成教育

- ・1、2年生 PBL 充実（4月～）
- ・教員相互の授業参観による教育の質の向上（4月～）
- ・ピアサポーター制度の充実（4月～）
- ・PBL 型インターンシップ実施（7月～10月）
- ・全学プレゼンテーション大会（2月）

III. 教育効果の記録・蓄積

- ・eポートフォリオシステム運用（4月～）
- ・1、2年生映像ポートフォリオ収録開始（4月～）

IV. 外部との連携

- ・教育ボランティア募集継続（4月～）
- ・就業力育成支援室 Web ページ更新（毎月）
- ・教育ボランティア研修（11月、12月）
- ・教育ボランティア運用（6月～）
- ・4年生卒業研究へのプログラム導入（1月）
- ・キャリアカフェ開催（2月）

報告・評価

- ・合同フォーラム実施（9月）
- ・第三者評価実施（3月）
- ・報告書発行（3月）

